

= 進む工事現場 =

大谷(おおたに)川では、越美山系砂防事務所初のN-SPC工法が最盛期を迎えている。本年度工事の終点側の擁壁施工が立ち上がってきた(写真①)。

大蔵(おぞう)谷では立木伐採が終わり、急峻な斜面の掘削に着手している(写真②)。

エノマ谷では、管理用道路の補強土壁が副堰堤の高さまで近づいてきている(写真③)。

日洞(ひぼら)谷では、砂防堰(えん)堤の床掘が進み(写真④)、堰堤打設もすぐそこだ。管理用道路では、側溝の据え付けが進んでいる(写真⑤)。

さて、最後に写真⑥は何かお分かりだろうか？実は、これ、大型土のう作成マシン。上部から土砂を導入し、大型土のうを作成する。様々な器具を使用し、工事が進む。



そして、新規工事も続々着手！

敷原(しきはら)谷工事は、現場で発生する土砂を有効利用のため、土砂とセメントを混ぜて堰堤を構築する工事。ソイルセメントの試験施工が完了した(写真A)。現場にはセメントと土砂を混ぜるソイルセメントの品質向上を目指し、土壤改良機械「リテラ」が登場(写真B)。いよいよ、ソイルセメント工事が本格的に始まる。

「カニ」が出現した瀬戸(せと)谷では、土石流の発生をこの上部のスピーカーが知らせる(写真C)。まずは、終点側の擁壁工事にも着手した(写真D)。

揖斐(いび)川流木対策工事では、アクセス道の円滑な通行を目指し、工事に着手(写真E)。



自然の強さを感じる・・・

エノマ谷の補強土壁には、植生回復のための種子を入れているが、ここに自然由来のものと思われる朝顔を発見(写真F)。時期も時期だけに、自然の強さを感じる出来事であった。

秋も深まり寒くなってきたので、皆様も風邪を引かないよう気を付けて。

